

第80回環境審議会 議事概要

令和6年11月21日（木曜日）10時～11時30分

明石市民会館 第1・2会議室

出席委員：14名

【議事1】明石市環境レポート2024（案）について

● 事務局より説明（資料1）

○ 表紙の写真は、昨年度、市役所に設置した常設型の紙のリサイクルBOX「Taco 箱(たこばこ)」。ごみの減量・再資源化に取り組む「ゼロウェイストあかし」の施策の一環として、家庭や事業所から排出される段ボール、雑誌、新聞、チラシなどの再資源化可能な紙ごみを回収するために設置したものの。

○ 昨年度のトピックスとして、市域を越えて豊かな自然環境を次世代へ引き継ぐ取り組みを広げるため、神戸市と2023年9月に締結した生物多様性に関する協定を締結。昨年度は、初めての試みとして「生物多様性フォーラム」を神戸市と共同開催。

○ 脱炭素社会実現に向けた取り組みについて、市域の温室効果ガス排出量は最新の2021年度実績で、エネルギー使用率の向上や電力のCO2排出係数の低下などの要因により、2013年度から約15%減少。また、温室効果ガス排出ゼロに向けた昨年度の新たな取り組みとして、事業者を対象とした脱炭素経営セミナーを開催するとともに、脱炭素ガイドラインを作成。さらに、太陽光パネル・蓄電池共同購入事業を県内9市町と連携して開始。

○ 自然共生社会実現に向けた取り組みについて、国の生物多様性国家戦略の改定を受け、本市の戦略も改定に向けた取り組みを進めていく。昨年度は、戦略改定の参考とするため、エコウイングあかし主催のもと勉強会やネイチャーツアーを開催。

○ その他、循環型社会実現に向けた取り組み、安全安心社会実現に向けた取り組み、環境美化への取り組み等について、各種事業を実施。

○ 事業者の環境活動の紹介として、川崎重工業明石工場における希少種保護の取り組みを掲載。明石市レッドリストにおいてAランクに指定されている水草のデンジソウを工場敷地内のビオトープ内にて保護する取り組み。

● 主な質疑

<全般>

(委員) 環境基本計画の理念には、将来世代に引き継ぐという言葉がある。大人がこどもに引き継いでいくという考え方だが、これからは、こどもたちも地域の人と一緒に考えて、環境問題を解決していくことがすごく重要になるのではないか。

<脱炭素社会>

(委員) 小学校への太陽光発電設備の導入について、脱炭素につながるだけではなく、災害時に非常用電源として利用できるメリットもあるため、その点を記載した方がよい。

(委員) 事業者の太陽光発電設備は増やしていきたい部分だと思うが、事業者補助金の実績が2件と少ない原因は何か。認知がされていないのか、それとも認知はされているが、活用したい事業者がいないのかなど。

(事務局) 予算が限られているため、実績の件数としては少なくなっている。今後は予算額を増やして、事業者への支援にも力を入れていきたい。

<循環型社会>

(委員) 行政はこうしてほしいという働きかけだけでなく、したことに対してもっと評価をする視点をもつと、市民の意識が向上するのではないか。例えば、ごみステーションに「きれいにゴミを出してくれてありがとう」と表示をしたところ、みんな褒められたからきれいにしようという意識になって、ごみステーションがきれいになった事例がある。

(委員) 啓発の観点で、行動経済学のナッジという考え方を活用することが流行っている。やりなさい、してはだめといわないけれど、自然とそうさせてしまうようなやり方のこと。例えば、公園のごみ箱にごみを入れると面白い音がする仕掛けをすると、その音を聞きたいために、みんなが公園のごみを拾うようになって、公園がきれいになったというようなこと。そういう啓発手法も参考にしていくとよいのではないか。

(委員) 課題と方向性の記述は、市民にどのように働きかけるかという視点も入れた方が、行政の取り組みと市民の活動がリンクしてわかりやすいのではないか。

(委員) ごみ減量推進員の今年度の具体的活動はどのようなものか。

(事務局) 2024年度の活動として、ごみを減らそうワークショップを市内8か所で開催。ワークショップには、推進員や協力員、また一般の方もご参加いただき、ごみ減量のために普段自分たちにできることを話し合ってもらい、アイデアを出してもらった。これらのアイデアについては、今後、ゼロウェイスト通信で市民の皆様にもお知らせする予定。

(委員) 今年度から始めた歯ブラシのリサイクルは企業ともタイアップして、環境の取り

組みの特徴になると思うので、来年度のレポートにはぜひ掲載してほしい。

(委員) 課題と今後の方向性について、プラスチック分別の記載はあるが、食品ロスの削減もごみを減らす大きな方向性になると思うので、新しい方向性として示すとよいのではないか。食品ロスの記載はレポートにはないが、取り組みとしてはあるか。

(事務局) 食品ロスについては、食べきりや無駄なものを買わないという啓発を普段から実施しているが、加えて、フードドライブの取り組みを市内のスーパーで実施されているので、その取り組みにも協力しながら、啓発をしている。また、今年度は生ごみ処理機の助成をスタートしたところ。

(委員) 例えば、フードドライブなどはこうしたレポートで紹介してもらえると、市民もこういう取り組みがあるんだと知る機会になるので、よいと思う。

(委員) 「Taco 箱(たこぼこ)」の設置はありがたいが、古紙の回収の頻度を月2回にしてみようと回収率が上がることは明らかである。月1回というのがすごく不便で古紙を家にため込むのが難しいので、月2回に検討してほしい。

(事務局) 古紙回収の頻度を上げると、回収量が上がることは認識している。一方、回収するには費用もかかるため、慎重に検討していくことが必要と考えている。

<環境美化>

(委員) 課題と今後の方向性の記載について、行政だけの視点ではなく、市民も巻き込んだ視点での記載が望ましい。例えば、地域の取り組みとして、住民が駅周辺の花壇をきれいに植えたり、手入れしたり、その周りを掃除する活動を行っているところがあるが、そうした活動によって、駅を利用する人の意識も変わってきて、ごみをポイ捨てる人もいなくなった。地域の人たちも一緒に課題を考えることが大事。

(委員) 課題と今後の方向性の記載については、ポイ捨て防止だけではなく、環境美化全般を含めた広い表現にしてはどうか。また、地域の団体だけでなく、地域や住民の協力を得ながら取り組んでいくことも必要。

(委員) ごみを捨てる人がいるというのが根本的な問題のため、モラル教育を考えていくことが大事。環境教育の場で、子供たちの世代から意識を高めていくというのが、今後の課題や方向性になるのではないか。

<産業廃棄物>

(委員) 産業廃棄物処理業者について、優良産業廃棄物処理業者の数を示しているが、優良産業廃棄物処理業者以外の業者は良くないような印象を与えるため、その定義を書くことが望ましい。

<全体>

(委員) 今後の方向性について、市民の方の行動につなげるような書き方に修正するのはよいと思う。その上で、例えば、補助金の取り組みを見て、興味があるから調べたいとなったときに、そういう市民に向けて、ここを見たらよいですよという案内があればよりよいと思う。

【議事2】 報告事項 新ごみ処理施設整備に向けた取組状況について

● 事務局より説明(資料2)

○ 2022年度末に「新ごみ処理施設整備基本計画」を策定し、2023年度からは「新ごみ処理施設整備・運営事業者選定委員会」を開催するなど、2030年度の竣工に向けて、事業者選定の取組などを進めているところ。

○ 新ごみ処理施設整備・運営にかかる事業費削減に向けた取組として、施設規模の縮小や焼却炉数の変更、建設予定地の一部変更を行うこととし、施設整備基本計画の一部を変更。

○ 整備・運営事業の事業者選定にあたって公平性及び透明性をより一層確保するため、PFI法の規定により、実施方針の策定の見通しを公表。事業期間は、設計・建設が4年9か月、運営が20年、事業概要は、一般廃棄物処理施設の設計・建設と運転・維持管理に関する一連の業務とし、実施方針を策定する時期は2024年12月の予定。

● 質疑はなし

以上